INTERNATIONAL & INFORMATION STUDIES
新潟国際情報大学
Vol.87
国際・情報
学報　令和2年7月30日 発行

[本校]〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
tel. 025-239-3111　fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス]〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169
tel. 025-227-7111　fax. 025-227-7117
https://www.nuis.ac.jp　somu@nuis.ac.jp

誠実に本分を尽くす毎日を積み重ねよう

―困難乗り越え世界史の中を生きるために

新潟国際情報大学
学長　野崎　茂

「猖獗（しょうけつ）を極める」とはこういうことだったのか。年明け早々に新型コロナウイルス感染症が騒がれ始め、3月に新型コロナウイルス対策の特別措置法が成立。4月には東京、神奈川ほかの7都府県に緊急事態宣言が出されたかと思う間もなく、対象は全国に拡大していったのはご案内のとおりです。

この間私たちはいち早く「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」を起ち上げ、卒業式、入学式の取り扱いや新年度の授業方法を検討して参りました。詳細は後述のとおりですが、皆さんのご理解とご協力により、ここまで円滑に進行中です。

また大学では学生の皆さんからの強い要望に応え、学生一人当たり5万円の修学支援金を配布致しました。大学としてはこうした困難の中においても在学生のみならず将来入学してくる学生の皆さんに良好な施設、環境を整備維持し、その中で質の高い教育研究活動を行っていくことがその使命であると考えております。これはその中で取り得た精一杯の支援策です。もちろんまだ経済的苦境に立たされ学費等の納入にも難渋している学生さんたちが多いことも承知しております。ただこれに対しては政府による「学びの継続のための学生支援緊急給付金」などの支援制度も整備されて参りました。是非併せて活用してみてください。

「世界史の中を生きる」。おかしな言い方かも知れませんが、この数か月の経験でその感を強く持たされた気が致します。災害列島日本の中で私たちは地震、台風、大雨など多くの厄災を経験してきました。世界でいろいろな災害が発生しメディアで瞬時に情報が伝わってきても、実際に渦中にいない限り、どこか切り離された遠い世界の話のように感じてしまう。おまけに時間の経過とともにその記憶もだんだん薄れていってしまう。しかしながら今回は違います。局地的な厄災に留まらず瞬時に世界中に伝播し、あたかも世界同時多発的に発生したような様相です。そして今なお世界のあちこちで進行中です。

幸い日本では事態が一段落したとの認識の下、「新しい生活様式」への移行が始まりつつあります。とは言え今後想定されている第2波、第3波への備えは必須です。こうした流れの中で私たちが出来ることは誠実に本分を尽くし毎日を送ること、この積み重ねにより歴史の中に生き、歴史を作り上げていくこと。さぁ皆さん、一緒にこの困難を乗り越えて参りましょう。

NUISホームページ
https://www.nuis.ac.jp
（スマートフォン対応）
Facebookページ
https://www.facebook.com/nuis.face
Instagram
Twitter
@nuis_nabbit
YouTube
公式
チャンネル

「学びを止めない」修学支援を

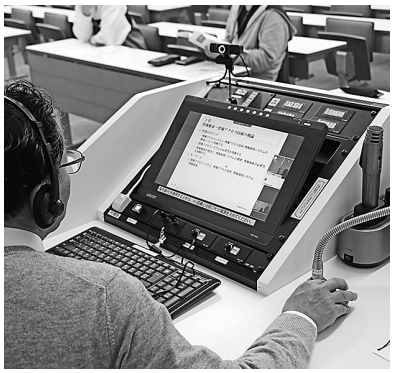
遠隔授業

94%をライブ授業で実施

授業に関する各種ガイダンスは中止となり、授業開始も4月6日から4月27日へ変更しました。また、授業形態に関しても、大学へ通って対面授業を行うという、日常的なことができなくなり、多くの当たり前の生活が失われる事態になっています。

このような状況下で、本学では「学びを止めない」教育方針のもと、いち早く遠隔授業導入の取り組みを進めました。

遠隔授業は、遠隔会議システムを利用してリアルタイムに受講する同期型授業（ライブ授業）と、レポート課題や授業をあらかじめ録画したものを学生が自由な時間に受講できる非同期型授業の2つのパターンがあります。本学はライブ授業を実現するため、遠隔会議システム「Cisco Webex」の導入を決定しました。



トラブルもなくスタートした遠隔授業

しかし、システム操作を覚えることや授業構成の見直し等、数多くの課題がありました。休日夜間問わず、多くの教員が遠隔授業について情報交換し、システムの操作を模擬授業として実施し、準備に取り組みました。

これらの努力が実り、導入週において341講義中320講義（93.8%）がライブ授業として行われました。対面授業と同じ時間帯で授業を行うことで、生活のリズムを維持し、双方向型の教育を実現することで質の高い教育を提供しています。

県内の大学では、GW明けからの授業開始が多い中、早い日程で授業を開始し、GWも返上して学修の遅れを挽回しています。このまま順調にいけば、7月31日で終了し、当初の予定より1週間程度の遅れで前期授業は終了します。後期授業開始の9月18日までの間、授業についていけなかった学生を支援する期間として、十分な日程を確保できると考えています。

また、教科書に関しては、送料や手数料をすべて大学負担とし、学生が指定する場所へ郵送することで感染防止に努めました。

学生支援

心と体を守る相談窓口開設

学修面だけでなく修学支援、学生相談、遠隔授業支援など、学費面やメンタル面なども含めた多岐にわたる学生支援を行っています。

独自の修学支援金給付

オンラインによる遠隔授業という慣れない授業形態を強いられる状況に加え、世帯収入やアルバイト収入の減少などで修学継続が困難になっている学生もみられます。こうした状況の中、少しでも修学支援の一助となるよう、全学生に一律5万円を給付（返還不要）することを決定し、速やかにお手元に届くよう手続きを進めています。

国の修学支援新制度

国が進める給付型の「高等教育の修学支援新制度」については、6月3日に説明会を本校（37名参加）および遠隔会議システム（109名参加）で同時開催しました。定期採用だけでなく、家計急変の場合も随時相談を受け付けています。

5月29日から修学支援給付を開始

本学の給付型奨学金

学費臨時給付奨学金や20th記念奨学金など、既に制度化されている奨学金です。「修学支援新制度」と併用はできませんが、同制度が利用できない場合は、学務課までご相談ください。

学生相談

感染症拡大による行動制限や自粛要請などの影響で、不安やストレス、焦りや恐怖を感じるなど、メンタル面にも影響が出ています。大学へ足を運べない学生に対し、メールや電話で相談できる窓口を開設し、6月からは臨床心理士による学生相談も再開しました。学生の心と身体の健康を守るために、きめ細やかなサポートに努めています。

オンライン授業コールセンター

遠隔授業におけるトラブルや質問に対応するために新設しました。遠隔授業で問題が発生した際は、即時対応できるセンターです。また、自宅にインターネット環境がない学生には、Wi-Fiルーターの無償貸し出しを実施するなど、遠隔授業支援のために万全の態勢を整えています。

本学の「新型コロナ感染症」対策の記録

3月5日　第1回新型コロナウイルス感染症対策本部（以下対策本部会議）
・新型コロナウイルス感染症対策本部設置
・卒業式（3月21日りゅーとぴあ予定）中止決定→学部別学位記授与（本校）

3月11日　第2回対策本部会議
・令和2年度入学式（4月1日）の延期
・授業開始を延期し、4月27日～とする

4月1日　第3回対策本部会議
・政府の緊急事態宣言を受けて、全学に不要不急の外出の自粛を促す
・遠隔授業の導入を決定（システム検討）

4月10日　第4回対策本部会議
・延期した入学式の中止を決定
・遠隔授業システム決定
・教職員の新型コロナウイルス感染症対応について、4月3日付けの自粛通知の期間延長を決定。

4月16日　第5回対策本部会議
・前期授業は原則遠隔授業（教員は教室・研究室、在宅問わず）とする。学生の入校は禁止（制限解除あり）。ただし、感染が沈静化した場合は変更もあり。
・緊急事態宣言地域在住の非常勤講師、及び学外講師の授業は学外からの遠隔のみとする。海外在住者も禁止。

4月19日　第6回対策本部会議
・新潟県が政府の緊急事態宣言の対象地域となり、4月17日の県知事の指針（大学に関する要請はないが）に従い、教職員学生の外出の自粛要請を継続。4月20日学長名による学生への健康管理、クラブ活動の禁止、アルバイトの自粛要請が発信された。
・4月22日、23日は当初予定の「新入生ガイダンス」を中止し、「遠隔授業用PC配布会」を行う。
・前期教科書の対面販売を取りやめ、郵送とする。

4月21日　第7回対策本部会議
・遠隔授業導入の確認

4月22日、23日　新入生PC配布会（ガイダンス）開催

4月23日　新潟市長中原八一氏来学。理事長、学長、森理事、佐々木事務局長に大学の新型コロナウイルス感染症拡大対策への協力要請。

4月24日　PCサポート室に遠隔授業相談用のコールセンターを開設。4月24日～27日問い合わせ57件、いずれも解決。大きなトラブルなし。

全学挙げて「コロナ禍」に対応

拡大する新型コロナウィルス感染症に対応するため、本学は野崎茂学長を本部長とする「新型コロナウィルス感染症対策本部」を3月4日付けで設置。「学びを止めない」教育方針のもと、全学生に「修学支援金」を配布し、教職員、学生一体となって取り組んできた本学の「コロナ禍」対応をまとめました。

目を見張る学生の順応力

「Withコロナ」見据えた試み

オンライン・ゼミ

堀川ゼミでは、遠隔授業のメリットを活かす試みとして「Webex 4学年合同ランチ・ナイトミーティング」を行っています。後輩たちはサークルや就活などについて自由に質問し、先輩からは様々なアドバイスがありました。4学年合同での交流は例のない機会なので、4年次生にとっても、就活の息抜きになる楽しい時間のようです。

また、1年ゼミでは「Webex ゼミ内座談会」を開始しています。1年次はまだ大学では体験したことのない、休み時間のおしゃべりのような交流の機会を作っています。1人暮らしの悩み解決として料理のレシピ交換をしたり、サークル・部活は何に入りたいかを話したり、話題は様々です。

授業内容によって、ZoomやTeamsなども併用していますが、感心するのは学生たちの順応する力の高さです。オンラインツールを使いこなして自主的なグループワークなども行っています。ツールの面だけではなく、教員が少しだけ工夫をして交流の機会やデジタルな場所をつくることが出来れば、学生たちはそれを有効活用できると感じています。

新しい時代を生きる学生たちのために、「With コロナ」の学生同士の交流機会も充実させられたらと考えます。

（国際文化学科 講師 堀川 祐里）

Web歓迎会

ランチミーティングで交流

新入生の皆さんは、入学式は中止、授業は遠隔、日常生活は行動が制限されるなど、経験したことのない生活を余儀なくされています。

学生委員会では、新入生の不安を少しでも解消しようと、「NUISウェブ新入生歓迎Week 2020」を企画し、遠隔会議システムWebexを使った“歓迎会”を、6月15日から18日までに4回行いました。

開催時間は毎回昼休みの30分程度で、案内役は先輩学生が担当。学長、学部長との交流や学内見学、大学生活での疑問やアドバイスを先輩に聞くなど、様々な情報をウェブで知ってもらいました。学内ミニツアーも行われ、ウェブでのランチミーティングでは、5人の先輩と質疑を交わし、交流しました。

新入生と楽しくコミュニケーションをとる
小林学部長（右）と在学生

キャリア支援

企業説明会もオンライン化

感染症拡大の影響を受け、今年3月以降の合同企業説明会は次々と中止されるなど、就職活動は大きく変容しました。学生からは企業と接する機会が失われ、何をしたらいいか分からない…など、不安の声が多く聞かれたことから、キャリア支援課では緊急就職ガイダンスを実施し、「進路に向かい今すべきこと」をテーマに、学生の不安払拭を図りました。

企業の応募期間が集中する4月末には、対象となる学生全員に履歴書を無料配布。就職指導では、対面式で実施していた相談、履歴書添削、面接練習などのオンライン対応を開始しました。

5月下旬からは企業説明会もオンライン化し、週に1回、3社に参加していただき開催しています。6月には県内の感染状況を考慮し、県内企業に限り、対面での企業説明会を再開しました。

今後も学生が安心し満足できる就職活動を送れるよう、全力でサポートしていきます。

慣れない環境の中、
就職のポイントを説明する西脇課長

4月25日 入学式中止
4月27日 遠隔授業開始
5月5日 **第8回対策本部会議**
・5月4日全国緊急事態宣言が延長―新潟県の方針を確認
原則5月31日まで入校禁止。ただし4年次に限り、施設の一部を開放（図書館：卒業研究のための資料検索、情報センター：プリント、学生会館：証明書発行）。
・ゼミ、卒業論文指導については、担当教員が対面指導が必要と判断したときは例外的に認める。
5月7日 臨時常務理事会開催
・全学生（休学生を除く）に一律5万円の修学支援金の給付（案）をまとめる。6月29日理事会決定。
5月15日 **第9回対策本部会議**
・全国緊急事態宣言解除に伴う対応について
1年次の基礎ゼミを1回対面授業で実施する。
イベントへの参加条件や大学施設の利用基準の見直しを図った。
・オープンキャンパス（7・8月）は、対面、web両方準備する。
5月25日 **第10回対策本部会議**
・課外活動を許可制で認める。
・図書館 月～土 9：00～17：00、PC教室・ナビ広場 月～金 9：00～18：00で開放。

左上:防止対策を施した事務局窓口　右上:中原市長（左端）より協力要請をうける学長（右端）
左下:テーブル椅子を間引いた食堂　右下:コンピュータの間にも間仕切り

澤口晋一教授のレポート

青山海岸に「浜崖」が出現

「浜崖」は、砂浜海岸に形成される通常数10センチ程度の高さの小崖のことで、新潟県内の海岸にもよくみられます。ところがこの冬、新潟市青山海岸に出現した浜崖は崖高が最大2．2メートルに達し、崖の長さも700メートルを越えるものでした。これだけ大規模な浜崖が形成されたのは、青山海岸では消波ブロックが1980年代前後に設置されて以降初めてのことです。新潟日報、BSNに相次いで取り上げられたのはそのためです。

今回の浜崖が平均的な海面よりも5～7メートル高い位置から生じていることを考えると、冬の間に異常な暴浪が発生したとみられます。また崖の状況からみて、かなり短時間（例えば、一晩）に形成された可能性が高いと考えられます。

前述した消波ブロックは、2～3メートルもの厚さの砂層に埋もれていましたが、今回の浜崖の形成にともなって再露出したのです。1970年代には、新潟海岸の砂浜は海岸侵食によって完全に消失し、現在とは全く異なる景観を見せていました。消波ブロックは人工的に砂浜を侵食以前の状態に戻すために1980年代前後に設置されたもので、砂浜回復に大きな効果を発揮しました。

一瞬で波に消えた砂浜

今回の浜崖は、このように30～40年かけて回復させてきた砂浜が、ほとんど一瞬にして波に消えたということを意味しています。自然現象には違いありませんが、その背後に見え隠れする人間の影響を考えずにいられません。

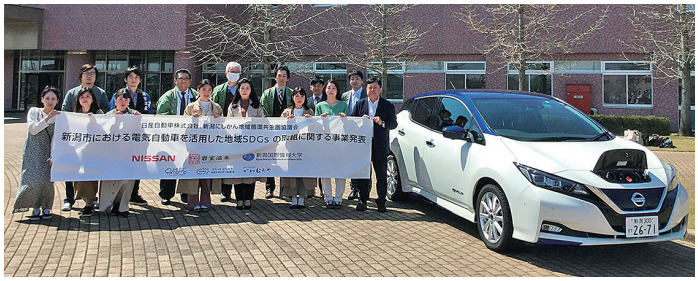
（国際文化学科　教授　澤口晋一）

青山海岸に出現した浜崖
（2020年3月23日・澤口教授撮影）

にしかん地域循環共生圏協議会が発足

本学も「SDGs」目指して参加

岩室温泉地区の課題を探る



今後活用する電気自動車と記念写真に収まる協議会メンバー

2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」への関心が高まるなか、地域でのSDGsの実践（ローカルSDGs）を目指す「新潟にしかん地域循環共生圏協議会」が、3月31日に発足しました。

同協議会には、本学のほか、岩室温泉旅館組合、岩室温泉観光協会、岩室温泉自治会、NPO法人いわむろや、（一社）おらってにいがた市民エネルギー協議会、MUSIC DROPが参加し、共同代表に本学の佐々木寛・国際学部長と岩室温泉旅館組合の岡﨑秀・組合長が選出されました。

本学はこの協議会の一員として、「地域循環共生圏」という、観光、教育、農業など地域にある資源を最大限に活用しながら環境・経済・社会を向上させ、自立した持続可能なまちづくりを目指すプロジェクトを展開していきます。

具体的には、本学の学生が岩室地域でフィールドワークを行ったり、地元イベントの企画や運営に携わったりしながら、地域における課題を自ら見つけ、その解決策を岩室地域に関わる多様な人々とともに探求するという内容です。本学にとっては、「サービス・ラーニング」という新たな教育の試みとなります。

すでにSDGs推進団体「Rainbow World Project」の学生13人が、岩室地域でのフィールドワークに着手し、同地域に関わる人々との交流を始めています。また、日産自動車の協力を得て、電気自動車「日産リーフ」1台を10月までに導入することが決まりました。環境に配慮した車を、平日は学生が活動に利用し、週末は岩室地域で観光客に貸し出します。

本プロジェクトは、温泉×大学×電気自動車、観光×教育×環境を融合する、全国的に例のない実証事業として各種メディアにも取り上げられ、注目を集めています。

（地域連携委員長　国際文化学科　准教授　山田裕史）

高木元教授に名誉教授授与

昨年度で退官された高木義和元情報システム学科教授に、新潟国際情報大学名誉教授の称号が授与されました。

高木名誉教授は、1996年着任から24年間に渡り、情報システム学科教員として、情報を効果的に利活用することを目指した情報論、情報検索、情報文化の3科目を担当されました。

また、情報システム学会の設立、カナダ夏期セミナーの立ち上げ、エドモントンのIT企業調査、パソコン学の教科書作成など授業以外でも、本学の発展に大いに貢献されました。

あとがき

今回は、コロナウイルス感染拡大により、3月の卒業式、4月の入学式が中止となり、前期授業はようやく6月に入り、一部のゼミナールで対面形式となりましたが、多くの授業がオンラインでの実施となりました。

また本学カリキュラムの特徴である、後期に実施を予定していた派遣留学・夏期セミナーも大変残念ではありますが、中止となりました。

今回の学報はこのコロナ禍にあたり、日々刻々と状況が変化していく中で本学が一丸となり、在学生のために取り組んだ様子を後世に残すアーカイブとして制作しました。

（入試・広報課　清水岳）